

## 本学に関するQ&A

### 1. 大学について

質問	回答
<p>移転先に豊島区を選んだ理由は？</p>	<p>校名に「東京」を冠する本学にとって、東京都心部にキャンパスを開設することは長年の懸案でした。平成25年には理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議、正式に進出先選定に取り組んできました。本学メイン・キャンパスは川越にあり、東武東上線一本で繋がる池袋は交通アクセス面でベストといえる立地です。平成29年、UR都市機構より豊島区造幣局地区の土地が公募に出され、内容精査したところ、面積等も本学希望に合致するものであったため応募を決定、落札することが出来ました。</p>
<p>東京国際大学の学生の構成は？(日本人と留学生の割合。留学生の出身国と出身国別の人数は？)</p>	<p>本学の在学生数は約6,400人、うち外国籍の学生数は約1,200人であり、約20%を占めています。入学者の出身国は74カ国に及んでいます。 池袋国際キャンパスに移転を予定している英語で学位修得可能な課程：イングリッシュ・トラック・プログラム(ETラック)に在籍する外国籍の学生数は令和元年5月時点で約900人です。将来的には、池袋国際キャンパス収容定員3,500人の過半を外国人留学生で構成することも構想していますが、学力レベルを維持向上させながら拡大させる方針であり、達成には時間がかかる見込みです。令和5年の新キャンパス開校時点では、日本人比率が半数以上である可能性が高いと考えています。</p>
<p>外国人学生の選抜の方法は？(例えば、自国政府の推薦、自国教育機関の推薦など)</p>	<p>ETラックの入試は、グローバル・スタンダードに則った方式を採用しています。即ち、全世界に門戸を開き、応募書類をインターネット及び郵送ベースで受付けています。応募に必要な書類は、①文科省の定める大学入学資格(原則12年制の教育課程修了)確認資料、②志望動機等を記載したエッセー、③英語スキルの証明(TOEFL、等)、④高校(編入の場合大学)の成績、⑤(保有者は)共通テスト成績(SAT、IB、等)、⑥推薦状(出身校の教員)、⑦課外活動の内容を証明する書類、等です。入学者の選抜は、上記提出書類の内容を総合的に評価して行っています。 重要なことは良質の受験者を確保することであり、各国の上位高校との関係構築を重視しています。英語で学部乃至大学院の課程を修了するためには高校までの段階で、英語による学習基盤を確立できていることが必須条件であり、その条件に合致するのは特定の上位高校出身者に限定されるのが実態です。本学は、各国に教職員を派遣して、主要な高校で説明会を実施、また校長や進学カウンセラー教員を本学に招く等、積極的に関係構築を推進しています。</p>

<p>外国人留学生の主な就職先は？</p>	<p>ETラックは、平成26年度にスタートした新しいプログラムであり、平成30年度卒業生が実質的に第一期卒業生です。57人の卒業生のうち46人が就職を希望、うち27人が日本国内で就職、16人が海外で就職しました。就職率は93.5%でした。 就職先業種は多岐に亘りますが、IT関連や人材関連企業への就職者が比較的多数となりました。また、外資系企業や出身国に進出する日本企業への就職も目立ちます。 この他、7人が大学院に進学、うち5名が海外進学(ラドバウド大学、ブリストル大学、ルンド大学、ローマ・ラ・サピエンツァ大学、北京大学)、2名が国内進学(東京国際大学、上智大学)です。</p>
<p>卒業生の主な業績などは？ (自国政府での要人など)</p>	<p>ETラックは、この春の卒業生が実質第一期生であり、これからの活躍を期待しています。 ETラック開講以前の本学学部及び大学院で受け入れた留学生に関しては、各国の政府機関等で勤務するケースは少なくありません。事例としては、ネパール政府統計局ディレクター、ジョージア中央銀行金融政策部主任専門官、タンザニア国家統計局主任統計官、インドネシア金融省調査分析部門長、ベトナム総合統計局統計官、世界銀行データマネジャー、ブータン国家統計局調査官、フィリピン統計局主任統計官、エチオピア中央統計局上席統計官、等です。</p>
<p>学会などは年に何回ぐらい開催されるのか？</p>	<p>平成30年度に本学キャンパスで開催した学会、国際会議、公開講演会等は、合計7件です。参加人数は30～200人程度。この他に、都内の会場で実施した国際シンポジウム(参加者約500人)、JETRO共催国際会議(〃約60人)等があります。</p>
<p>学会はどの程度の規模なのか？(参加人数や参加者の出身国) (学生以外に不特定多数の外国の方が来られるのか？)</p>	<p>外国からの参加者は、基本的に招待者や事前登録者であり「不特定」ということはありません。キャンパスで開催したJETRO共催の国際会議は参加者30人のセミナーで外国からの参加者は9人(インド及びオランダ)。国際シンポジウムでは、講演者として著名な国際政治学者であるジョセフ・ナイ氏を平成26年(2014年)以来招聘しており、今年も招聘予定です。参加者は基本的に国内在住者に限られ、外国関係者としては各国大使館関係者や本学の外国人教員が中心です。 今年度に入り、7月6日には池袋にて文化講演会(参加者約250人)を開催しました。講師は、ロバート キャンベル氏(日本文学研究者 東京大学名誉教授 国文学研究資料館長)です。</p>
<p>他の大学(東京福祉大学)で、留学生は1600名ほど不明になった報道がある。東京国際大学はどうなのか？</p>	<p>池袋国際キャンパスに移転を予定しているイングリッシュ・トラック・プログラム(ETラック)に関しては、グローバルスタンダードに則った厳格な学修管理を徹底しており、学業成績(GPA)及び履修単位数が一定基準を充たさない場合、学習指導を含めた経過観察期間を設け、改善されない場合、退学処分とする運営を行っています。平成30年度の経過観察対象者数は73人、うち退学処分としたのは8人、全員の帰国を確認しています。</p>

<p>夜間は何時ぐらいまで大学の明かりがあるのか？ 管理体制は？ (授業は何時まで？キャンパスのオープン時間は何時まで？)</p>	<p>現状、殆どの授業は5時限目(18:10終了)までに設定されていますが、6時限目(19:40終了)も一部開講されています。池袋国際キャンパスについては、授業運営の関係や、産学連携関連の講座等、現行よりも遅い時間帯での開講も想定しています。 図書館は現状22時まで開館しており、試験期間中等相当数の学生が勉強に励んでいます。学生の課外活動は、平日20時、土日祝17時まで(イベント時除く)としています。これらについても、池袋の立地に対応した見直しがありえます。 夜間の管理は警備会社に委託しており、24時間体制で管理しています。</p>
---	---

## 2. 大学の地域貢献について

質問	回答
<p>平常時、災害時各々について、どのような地域貢献をしていただけなのか？(食堂の利用、帰宅困難者の受け入れ、災害時用備蓄など)</p>	<p>池袋国際キャンパスには2つの食堂及びカフェテリアを計画しており、250席以上の屋内席数、それと同数以上の屋外席数を計画しています。1階部分(屋内180席、屋外50席)は、地域に開放する計画です。災害時には、1,000人の帰宅困難者を受け入れる計画です。災害時用の備蓄倉庫も帰宅困難者用に200㎡確保、1,000人分の備蓄物資を常備する計画です。詳細は、豊島区と協議の上、「帰宅困難者対策に関する協定」を締結することとなります。</p>
<p>市民参加ができるプログラムの用意はあるか？</p>	<p>本学の特色を活かした英語プログラムや、スポーツレッスン等を計画しています。50人以上のネイティブ・スピーカー教員による英語レッスンや、本学スポーツ指導者による技術指導等を企画したいと考えています。詳細は、今後地域ニーズ等を調査のうえ確定していきます。この他、国際シンポジウム、文化講演会等を開催し、広く一般に参加を募ります。</p>

### 3. 地域活動について

質問	回答
<p>大学生は町内会などの地域活動に協力や参加をしていただけるのか？</p>	<p>大学生として参加が相応しいと思われる地域活動には、是非とも積極的に参加させたいと考えています。現在、川越においては、市からの要請による「ごみゼロ運動」参加、ボランティアサークルによる近隣清掃活動、音楽サークルによる商店街夏祭りでの演奏、吹奏楽団による地域の福祉施設・特別支援学校での演奏会、チア・リーディング部による埼玉県警川越春の交通安全出発式での演技・地域の保育園夏祭りでの演技、川越市主催のマラソン大会や障害スポーツフェスのボランティア参加、近隣小・中学校の文化交流体験企画への留学生派遣、近隣小学校外国人児童の学習支援活動(国際関係学部:現場学修プログラム)、等を行っています。</p> <p>川越においては、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)の拠点校として採択され、地域と連携して「小江戸まちおこし」グローバル人財育成のための地域連携型教育研究拠点づくりを推進しています。この事業のなかでは、川越市及び川越商工会議所の協力を頂きながら、学生が地域との交流の中で学習をしていく活動を行っています。なお、日経キャリアマガジン社による企業人事から見たイメージ調査「価値ある大学2019年版」で、本学は「地域の産業・文化に貢献している」という評価項目で全国大学中第2位にランキングされています。</p>
<p>地域との連絡窓口を設置してくれるのか。</p>	<p>現在、地域との連携窓口は、事案に応じ各所管部署が担当しています。クラブに関連するものは学生課やスポーツ振興課、小中学校関連は国際交流課や学部が対応しています。</p> <p>池袋国際キャンパスにおいて、特定の連絡窓口を設けるか否かは未定ですが、地域のニーズ等を踏まえて検討してまいります。</p>

### 3. 留学生の生活について

質問	回答
<p>留学生に対して大学は健康診断を行っているのか？</p>	<p>学校保健安全法に則り、留学生/日本人に関わらず年に一度(春季)、学内にて健康診断を実施しています。</p>
<p>留学生の住居は大学が寮を用意するのか？</p>	<p>Eトラックに入学する留学生の多くは、日本在住経験がないため、1年生については大学で国際学生寮を用意し、原則居住させています。国際学生寮は川越キャンパス内及び近隣に確保しており、学生数増加に応じて拡充しています。</p> <p>留学生の多くは、日本での生活に慣れると比較的早期に民間アパート等に移って行く傾向にあり、原状住居探しに困っている事例は聞きません。</p> <p>池袋国際キャンパス移転後も、現有の国際寮は引き続き活用していく予定です。</p>

<p>留学生の居住分布は？池袋や大塚など豊島区内に住む事を想定しているのか？</p>	<p>現状、留学生の多くは、川越キャンパスの近隣に居住し、多くが徒歩乃至自転車通学をしています。国際寮退寮後、9割以上は引き続き川越市内に在住しています。川越市外の場合でも、坂戸市やふじみ野市など、比較的大学近辺が多くなっています。 池袋キャンパス移転後についても、通学に便利な立地に住みたいというニーズは強いと考えられますが、家賃水準が川越とは大きく異なることから電車通学を選択する学生も少なからず出てくると予想しています。 大学としても、学生への情報提供を適切に行うためマーケット調査を進めてまいります。</p>
<p>留学生のアルバイト先の傾向は？</p>	<p>川越市、または都内(池袋)の飲食店、コンビニエンスストア、英会話講師などが多くなっています。</p>
<p>大学は留学生に対して日本文化(特に生活環境レベルでの)をキチンと指導していただけるのか？</p>	<p>本学の建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」で掲げる「公德心」とは、日本的「和」の精神を謂います。学術面では、日本文化研究所を公德心涵養・啓蒙活動の中核として位置づけています。 より日常的、生活環境レベルにおいても、留学生にも分かりやすい「公德心」運動を推進しています。具体的には、日本で生活していくうえでの「Dos and Don'ts(べからず集)」を作成、新入生オリエンテーションで指導しています。さらには禁煙キャンペーン、「こんにちは」の挨拶推進、等を実施しています。</p>
<p>留学生は日本文化と自国文化の違いを認識して生活できるか？(特にゴミに関連して)</p>	<p>ゴミの分別に関しては、国際学生寮入寮時のガイダンスにおいて、分別ルールを詳細に説明したビデオを使用し説明しています。在寮中は、寮監及び日本人レジデント・アシスタントから継続的に指導を行っています。キャンパス外の国際寮においてゴミ分別の苦情を受けたことがあります。徹底した指導を行い、ルールを遵守させています。寮から出て民間アパートに移ってからも、よくルールを守っている模様で、この面での苦情が大学に寄せられたことはありません。</p>
<p>坂戸等の他のキャンパスにおいて、地域住民から苦情が入る場合、大学は現在どのような対応をしているのか？</p>	<p>まずもって、地域住民から留学生に関する苦情が多く寄せられている事実はありません。平成30年度中の留学生関連の苦情は、4件程度であり、国際交流センター及び学生支援部が窓口となって対応を行っています。苦情内容は、交通ルール(自転車の乗り方)に関するもの等です。</p>

#### 4. 震災等の発生時について

質問	回答
<p>発災時における、大学への連絡はどのようにすればよいのか？連絡窓口等設置していただけるのか？</p>	<p>現在、本学の防災対策本部は管財部庶務課が担っており、日常の防災訓練、備蓄物資のメンテナンス等を行っています。池袋国際キャンパスにおいても、同様に防災対策室を設置します。豊島区、防災公園、等関係機関との連携・連絡体制については「帰宅困難者対策に関する協定」を締結に向けた協議のなかで詳細を詰めてまいります。</p>

<p>キャンパス内にとどまっている学生には、どう対処するのか？</p>	<p>池袋国際キャンパスでは、1,000人の帰宅困難者受入だけでなく、キャンパス内にとどまっている学生、教職員3,300人、合計4,300人を3日間収容できる体制を整えます。十分な一時滞在スペースの確保、備蓄物資の常備、非常用電源の確保等を計画しています。</p>
-------------------------------------	--

## 5. 大学建設について

質問	回答
<p>今後、説明会の開催予定はあるのか？(工事説明会など)</p>	<p>工事を行う前に工事内容についての説明の機会を設ける予定であり、2020年夏頃を想定しています。</p>
<p>工事中の騒音など、連絡窓口は設置するのか？近隣住民に配慮した工事をしてくれるのか？</p>	<p>工事に関する連絡窓口を設置し、工事現場に工事の概要と連絡窓口を記載した看板を掲示します。近隣の方々に極力配慮した工事に努めますが、問題等あれば連絡窓口にてご相談対応いたします。</p>
<p>ビル風対策は？</p>	<p>建物を北東側に極力寄せることで、ビル風に配慮した計画としています。風のシミュレーションを行い、風環境の確認を行いながら、計画を進めます。</p>

## 6. 大学と防災公園について

質問	回答
<p>防災公園や公園内のカフェが学生に占拠されないか？そうならないよう対策は？</p>	<p>池袋国際キャンパスには2つの食堂及びカフェテリアを計画しており、250席以上の屋内席数、それと同数以上の屋外席数を計画しています。</p>
<p>大学と防災公園はどう連携、協力していくのか？</p>	<p>池袋国際キャンパスには大規模災害時帰宅困難者1,000人を受け入れる態勢を整える予定であり、豊島区や防災公園とも連携をとりながら対応していきます。 川越キャンパスにおいては、独自に防災訓練やBCP作成等を行っていますが、池袋国際キャンパスにおいては豊島区や防災公園と連携しながら対応していくことを考えています。 豊島区危機管理担当部署ともコンタクトを開始しており、今後対応の詳細を詰めたうえで協定締結に繋げて行く予定です。</p>